

住民総参加の福祉のまちづくりへ向けて
地域グループの役割

企業が できること

＜業種別事例編＞

本書の読み方

本書は、企業が地域のためにできることを実例で紹介しようというもので、各企業の「本業の腕」(特性)を生かした事例に絞りました。「モチはもち屋」と言いますが、本業の腕を生かすということは、それぞれの企業の最強の力を発揮しているわけですから、地域のためにも非常に役立つはずなのです。

それはまた、企業にとっては新商品の開発のヒントにもなるはずであり、そういう視点で見直してみても面白いと思います。

自身が属する業界の事例はすでに知っているものが多いでしょうが、これらの事例を紹介するポイントは、業界に関係なく、企業が持つどのような腕を、どのように生かしているのかという「アイデア」の面白さを参考にしていただくためですので、ぜひ各業界で実現した意外な社会貢献活動に目を通していただければと思います。

なお、本書では紹介していませんが、「各業界らしい腕」だけでなく、どの企業でも実践している企業活動—総務や営業、生産、社員福利、研究開発などの各部門でも、社会に役立てることができる資源がたくさんあります。

<目次>

小売店①／5

小売店②／6

商店街／7

製造業①／8

製造業②／9

建設業①（不動産業）／10

建設業②（不動産業）／11

運輸業①／ 1 2

運輸業②／ 1 3

レストラン①（外食産業）／ 1 4

レストラン②（外食産業）／ 1 5

理容店・美容院／ 1 6

ホテル／ 1 7

マスコミ（映像・出版・広告）／ 1 8

病院／ 1 9

寺社／ 2 0

I T・通信／ 2 1

パチスロ店／ 2 2

その他の業種①／ 2 3

その他の業種②／ 2 4

その他の業種③／ 2 5

技能者／ 2 6

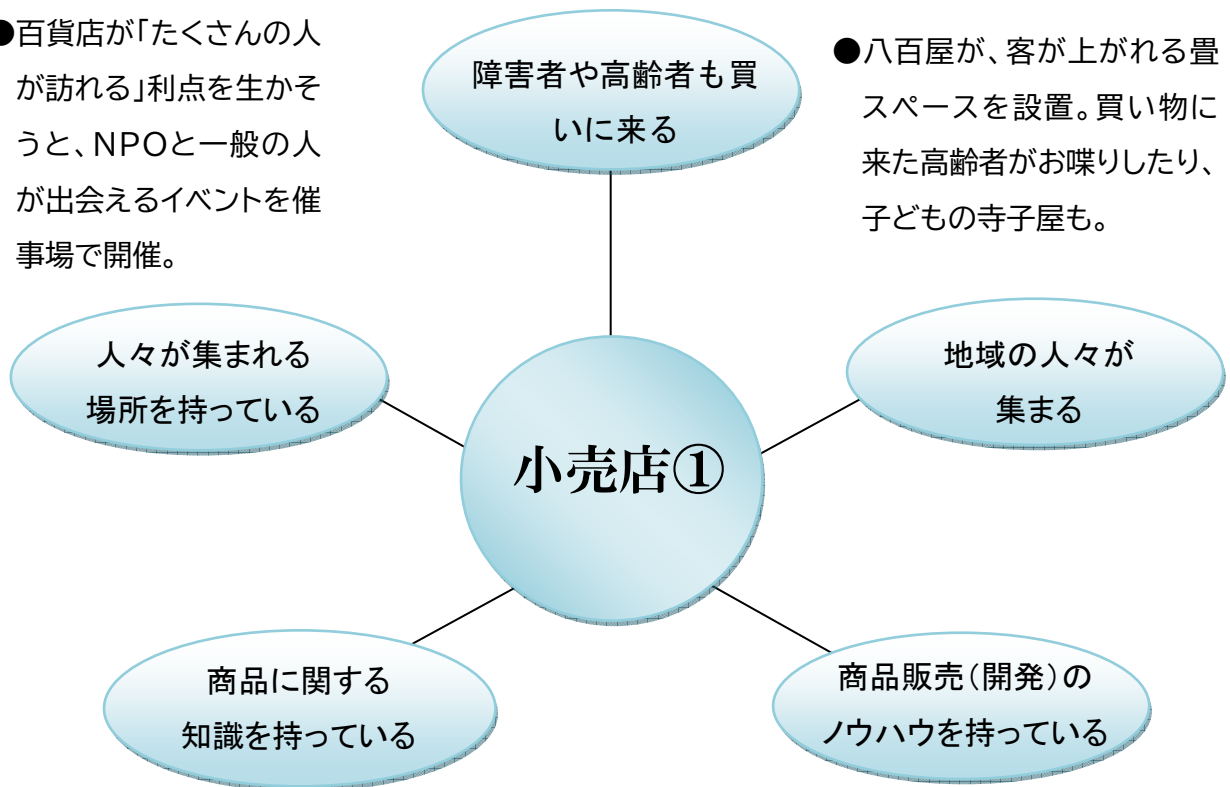
公共施設／ 2 7

学校（学生）／ 2 8

大学（学生）／ 2 9

- 靴屋が、病気や障害で左右の足のサイズが違う人に「左右バラで靴を売ります」。
- スーパーが「自閉症の子に配慮するレジ」や「高齢者がゆっくり会計できるレジ」を設置。

- 百貨店が「たくさんの方が訪れる」利点を生かそうと、NPOと一般の人が出会えるイベントを催事場で開催。



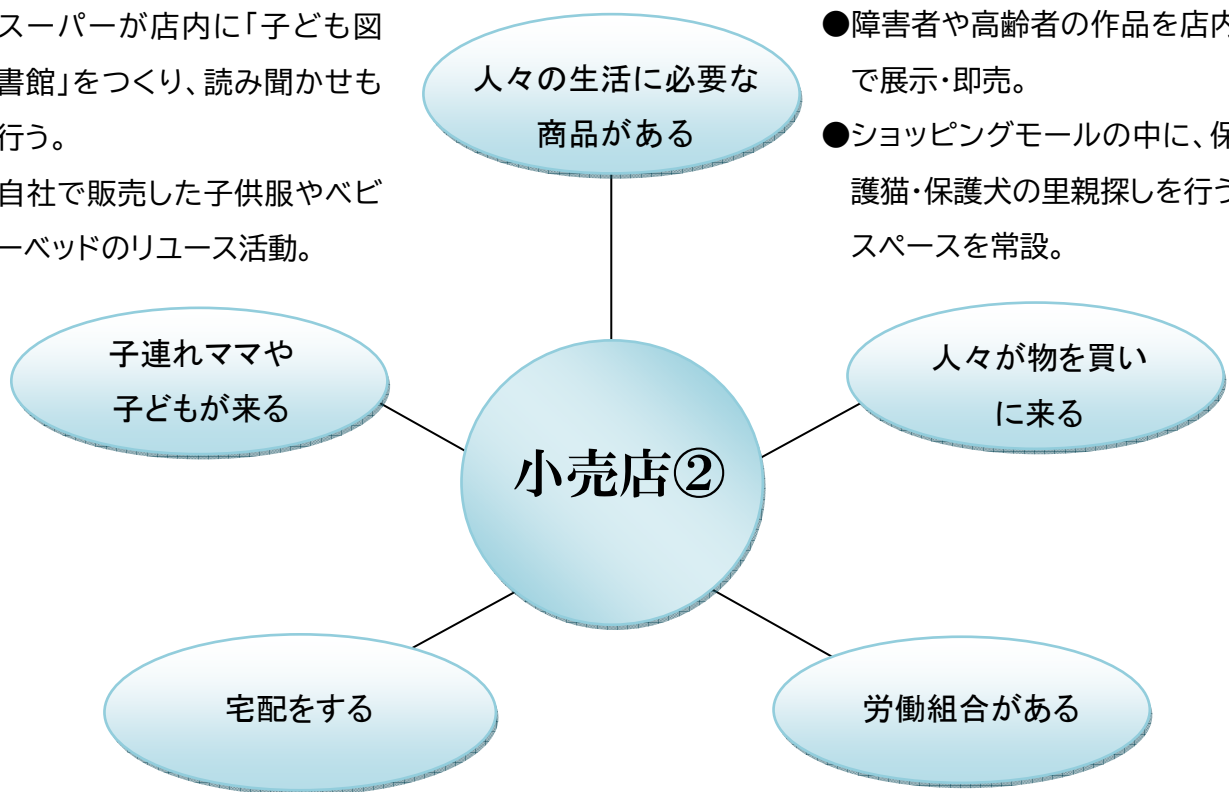
- 日本茶の販売店が、子ども食堂に「日本茶インストラクター」を派遣し、毎回自分たちで美味しいお茶を飲めるように指導。
- デパートの食品売り場で、ホテルのシェフが献立相談や料理の質問に応じる。「名店のシェフが作る介護食」の販売も。

- 大手通販会社が、障害者の授産施設に商品プランナーを派遣して「売れる」商品を一緒に開発し、販売。
- 「入院中でも素敵な店で買い物がしたい」という入院患者の願いに応じて、病院内におしゃれなブティック風のショップをオープン。

- 買い物難民を支援するために、コンビニが人口減少地区に出店費用を抑えた小型店を展開。
- 人々が必要とする物は、1年に1個しか売れない商品でも売り場に置く。

- スーパーが店内に「子ども図書館」をつくり、読み聞かせも行う。
- 自社で販売した子供服やベビーベッドのリユース活動。

- 障害者や高齢者の作品を店内で展示・即売。
- ショッピングモールの中に、保護猫・保護犬の里親探しを行うスペースを常設。

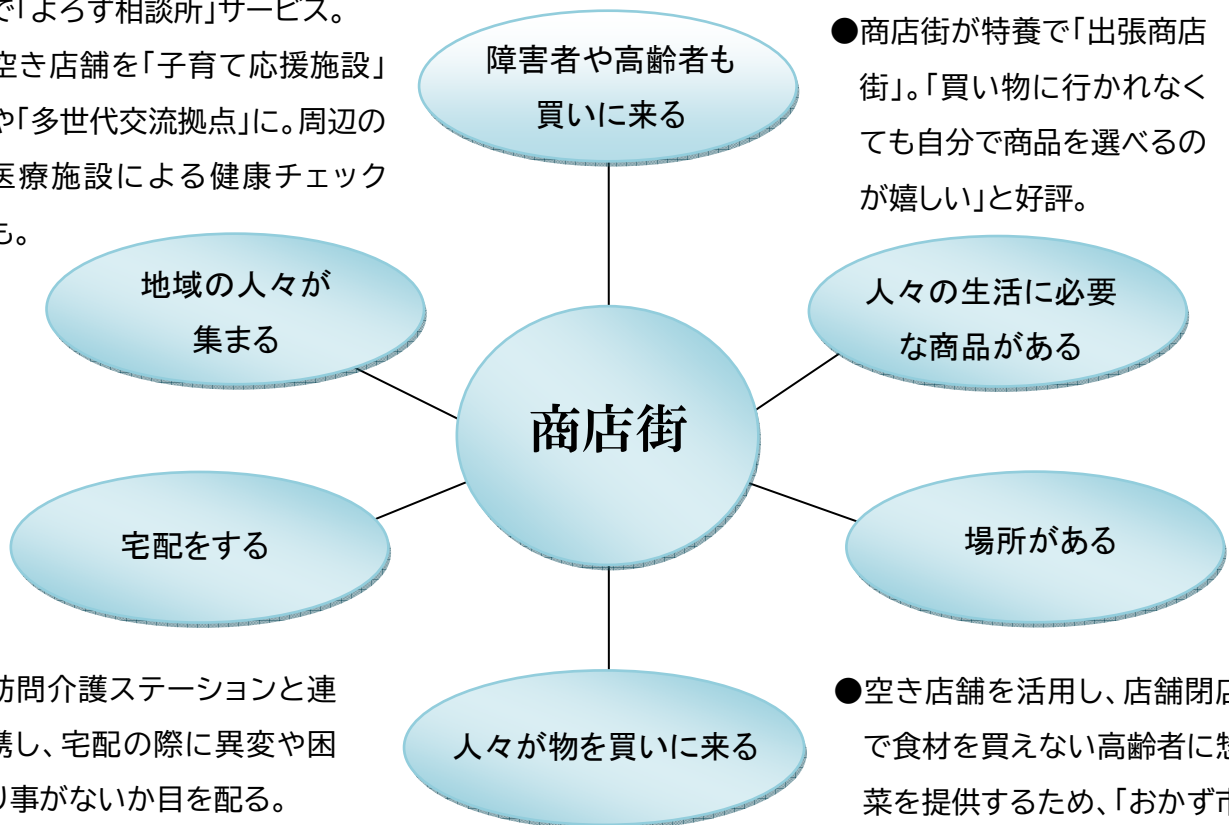


- 電気屋が「電池1個」でも配達し、ついでに犬の散歩や庭木の剪定などの日常の困り事に無料で対応。
- 高齢者宅に配達をするたび、家族に様子を知らせるサービス。

- デパートなどが加盟する労組のメンバーが、大型店の進出で打撃を受けた地域の活性化に取り組む。

- 認知症の人が安心して買い物に来れるよう、商店街を「徘徊ロード」にしたり、「認知症の人にやさしい店マップ」をつくって公開。
- 買い物カードを長期間利用していない人に電話をして、健康状態を確認。

- ヘルパー資格を持つ店主らで「よろず相談所」サービス。
- 空き店舗を「子育て応援施設」や「多世代交流拠点」に。周辺の医療施設による健康チェックも。



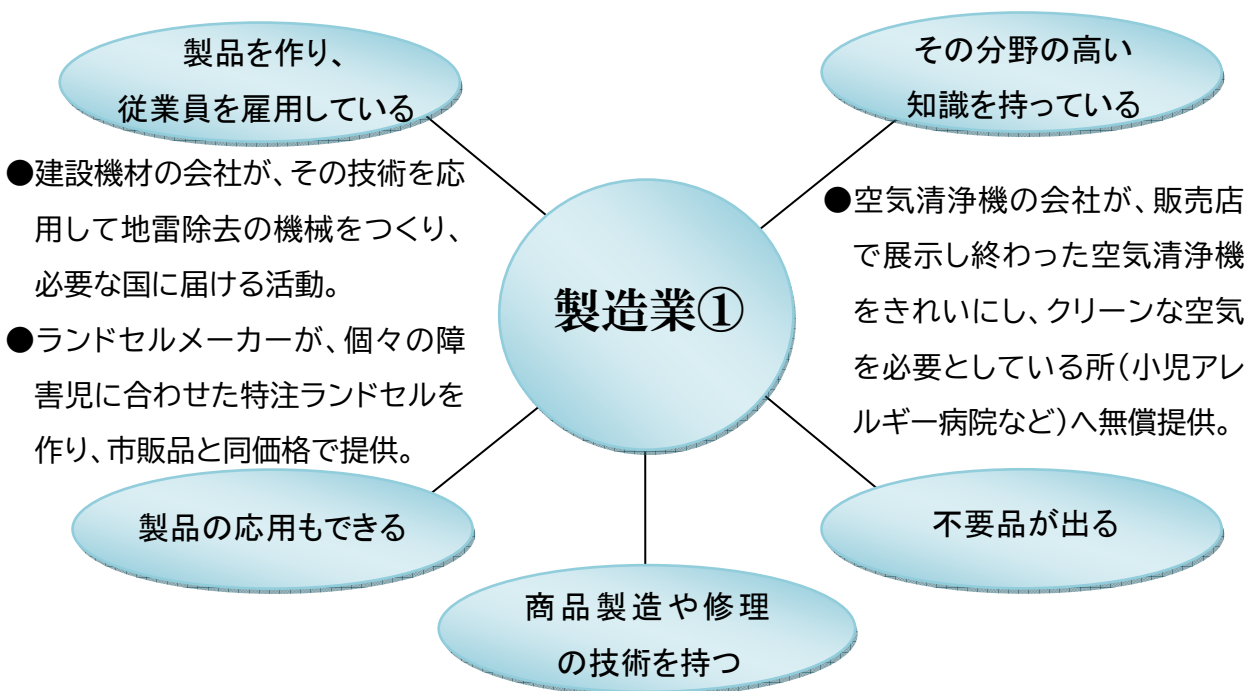
- 訪問介護ステーションと連携し、宅配の際に異変や困り事がないか目を配る。
- 配達時にゴミの引き取り。

- 商店街と市が、商売に挑戦したい人に空き店舗を提供し、実地体験を積んでもらう。
- 高校生のインターンシップ事業を実施。

- 空き店舗を活用し、店舗閉店で食材を買えない高齢者に惣菜を提供するため、「おかず市場」を開店。
- ビジネスホテルを改装して「高齢者下宿」に。市民も利用できる食堂や入居者の特技を生かしたコンサートなどを実施。

- 障害者の障害特性を「能力」としてとらえ直し、それを生かせる配置や工夫をする。
- 刑務所(受刑者)の支援として、デザインや生産技術指導などを自社で行った上で、生産工程を刑務所に委託。

- 製薬会社が、孤立しがちな患者会(セルフヘルプグループ)のサポート役を担う。医療団体と患者団体の仲介役として、ネットワーク作りも支援。



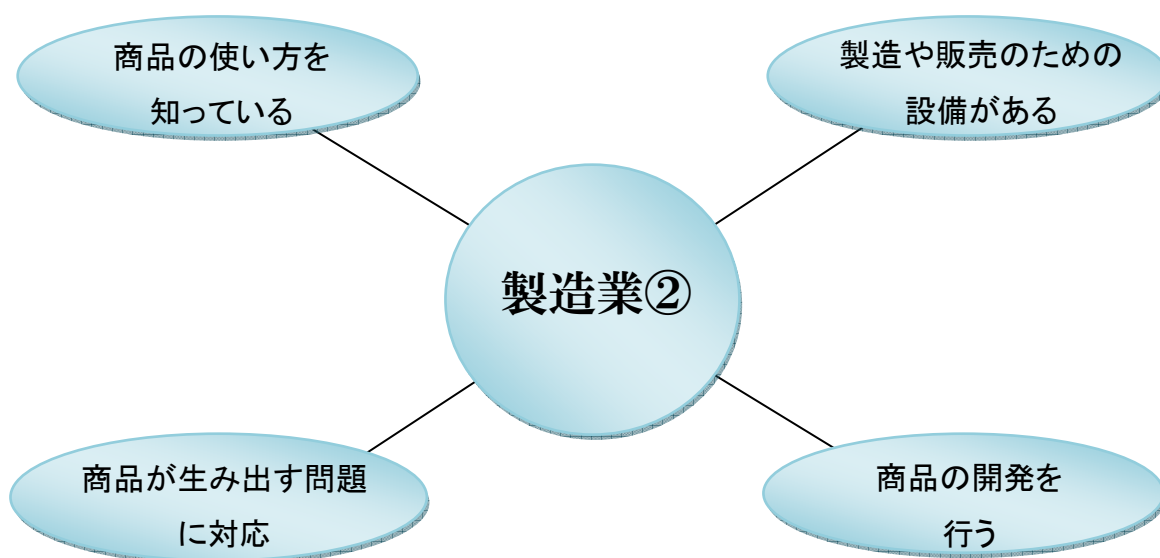
- 建設機材の会社が、その技術を応用して地雷除去の機械をつくり、必要な国に届ける活動。
- ランドセルメーカーが、個々の障害児に合わせた特注ランドセルを作り、市販品と同価格で提供。

- 空気清浄機の会社が、販売店で展示し終わった空気清浄機をきれいにし、クリーンな空気を必要としている所(小児アレルギー病院など)へ無償提供。

- 化学薬品の会社が、マラリア対策に殺虫剤を練り込んだ蚊帳を開発し、現地のメーカーに無償で製造技術を供与。
- 在日ブラジル人の若者の帰国後の就職支援として、自動車会社がポルトガル語による自動車整備士養成コースを開講。

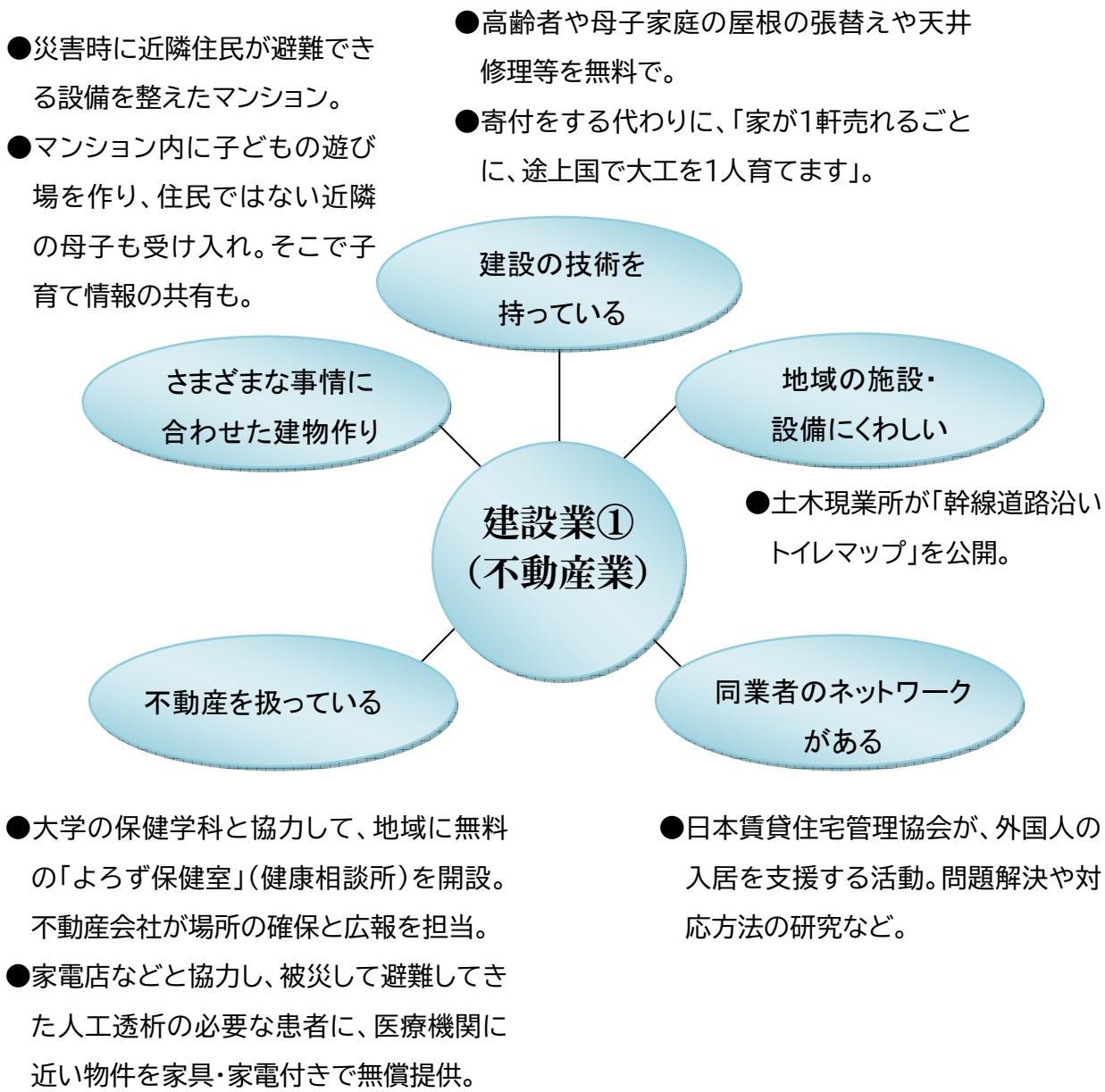
- 歯磨き粉の会社が、視覚障害のある社員が担当して制作した「さわってわかる歯みがきの本」(視覚障害児向け)を全国に配布。
- 化粧品会社が、視覚障害者のための化粧の手引書を作成。また各地で視力障害者のためのメーキャップ教室を開催。

- 被災して製品を販売できない同業他社の製品を、自社の店舗内で一緒に販売。
- 電炉メーカーが、広大な事業所を囲む外壁を「ギャラリー」として開放し、小中学生による地元の風景画などを展示。

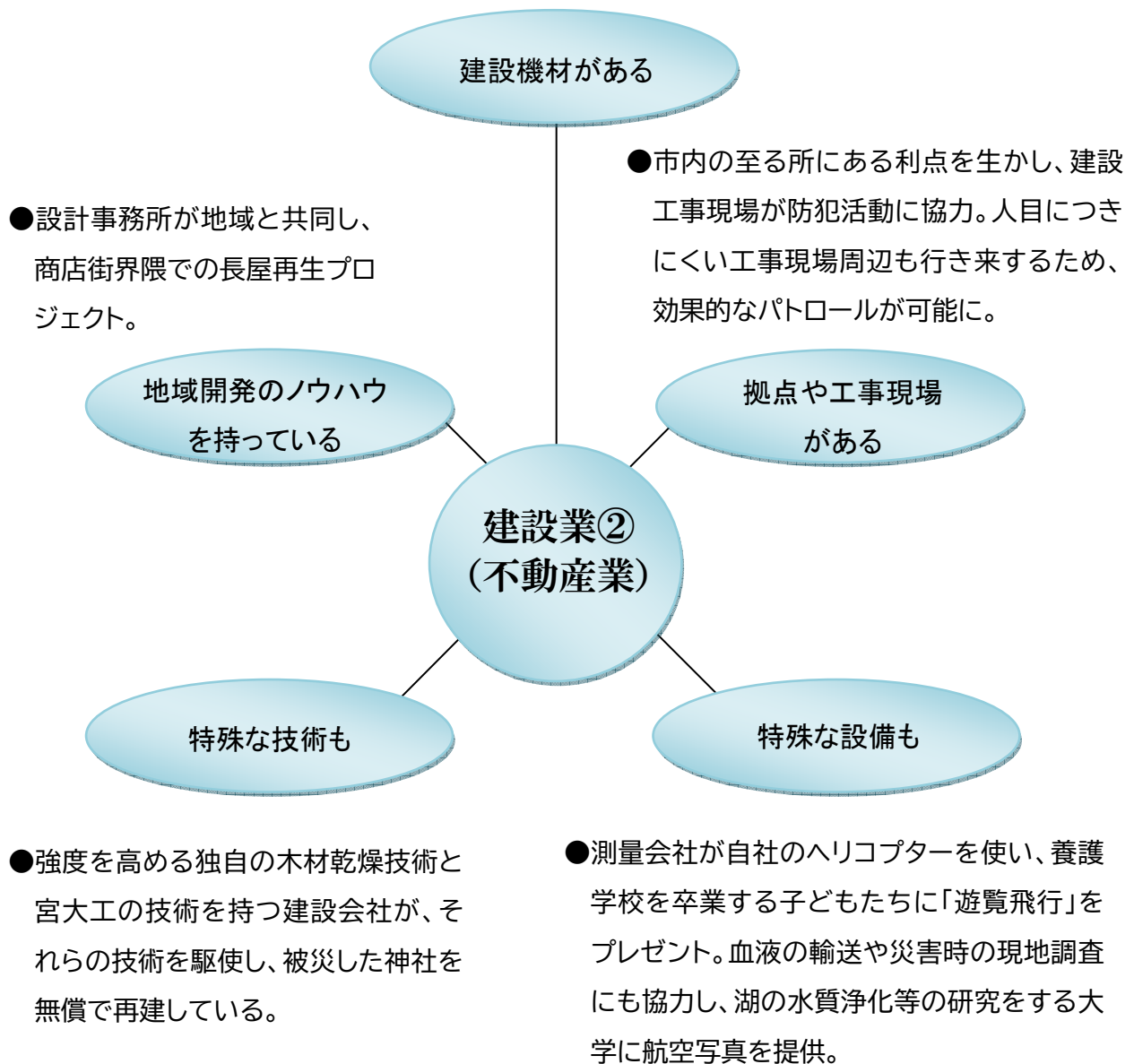


- 化粧品会社が、動物実験を行わずに商品を作るために人工皮膚を開発。さらに、それを医療現場にも提供して役立ててもらおう。
- 問題のある原料を知らずに購入して使っていた食品会社が、その事実を自ら公表し、被害を防止。

- BMWのエンジンを搭載した、健常者が羨むほど高性能でスタイリッシュな車椅子用オートバイを開発。
- 「子どもがつけたくない」義手作りに取り組む。人気キャラクターのデザイナーの協力を得て、ヒロインやヒーローになれる義手を開発。

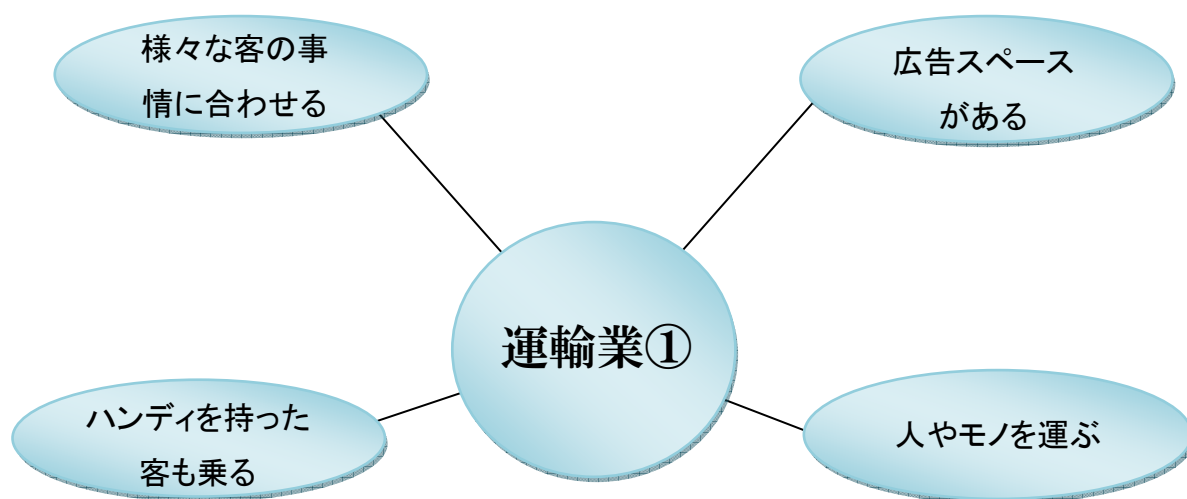


- 地震や地滑りなどの災害時に、危険場所の点検や応急工事、被災家屋のゴミの運搬作業等を担う。
- それを発展させて、「街の防災サポーター」として日頃から訓練を行ったり、災害時に被災者に提供するための救援物資を備蓄している所も。



- タクシー料金と実費だけで、買い物や薬の受け取りなどの用事を引き受けてくれるサービス。
- 塾や幼稚園への送迎ができない時に保護者の代わりに子どもを送迎する「子育てタクシー」。
- 飲酒運転の防止に協力し、「深夜型デマンドバス」や、市内一律料金の乗り合いタクシーを運行。

- 駅の広告スペースをチャリティ・プロジェクトに無償提供。
- 小学生の絵を展示する「展覧会列車」。

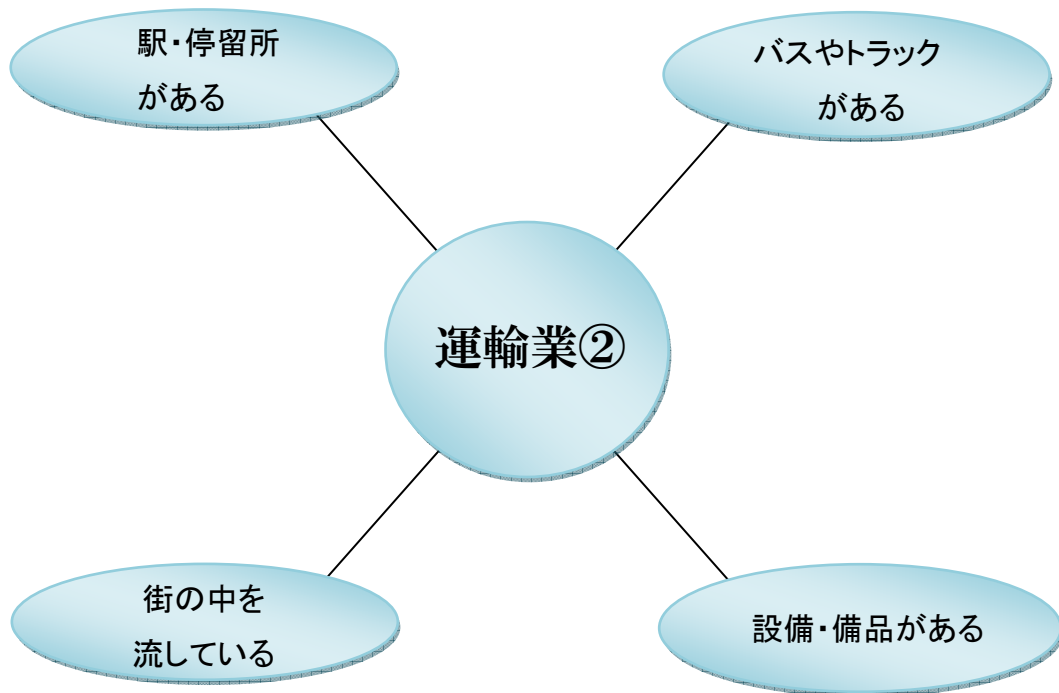


- 車いす対応車で高齢者や障害者を海へ移送し、砂浜用車いすで波打ち際まで案内する「海のタクシー」。
- 駅員がヘルパーや介助士の資格を取得し、仲間にも介助技術を指導。

- 図書館の本を高齢者や障害者の自宅へ届け、返却も。
- 運輸会社が、生活保護受給世帯等の引越しを無料、またはそれに近い費用で。

- 鉄道会社が、小さい子どものいる通勤客が行き帰りに利用できるよう、駅に託児施設を設置。
- 海運会社が、世界各地の港で小中学生を対象とした船やターミナルの見学会。

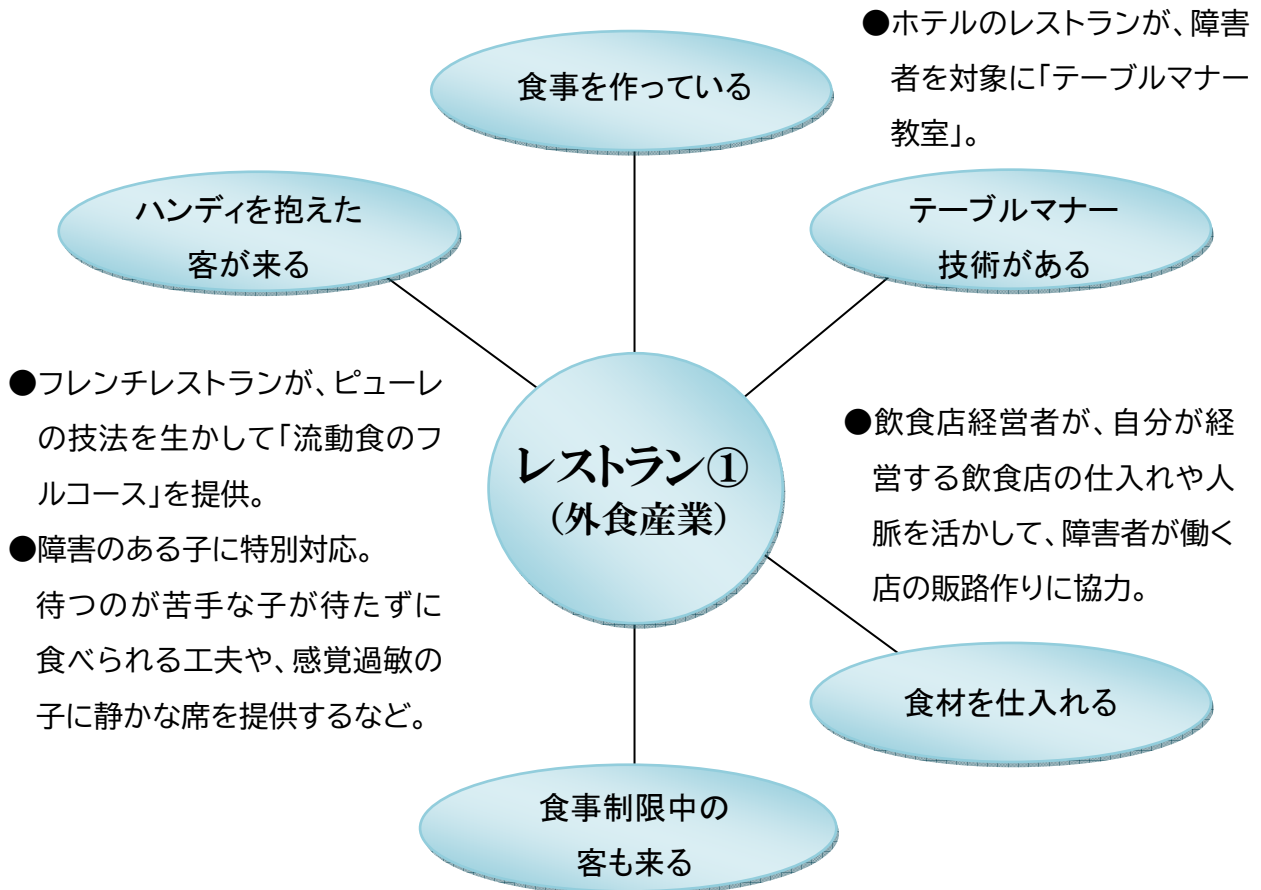
- 保冷車の保温性を生かし、浴槽を積んで被災地へ赴いて「移動風呂」を提供。



- 24時間救援システム。タクシー会社が高齢者世帯等を対象に緊急対応業務。

- 飛行機会社が「職員訓練用の機体」を活用し、自閉症の子が旅行前にエンジン音や揺れに慣れるための体験会を開催。

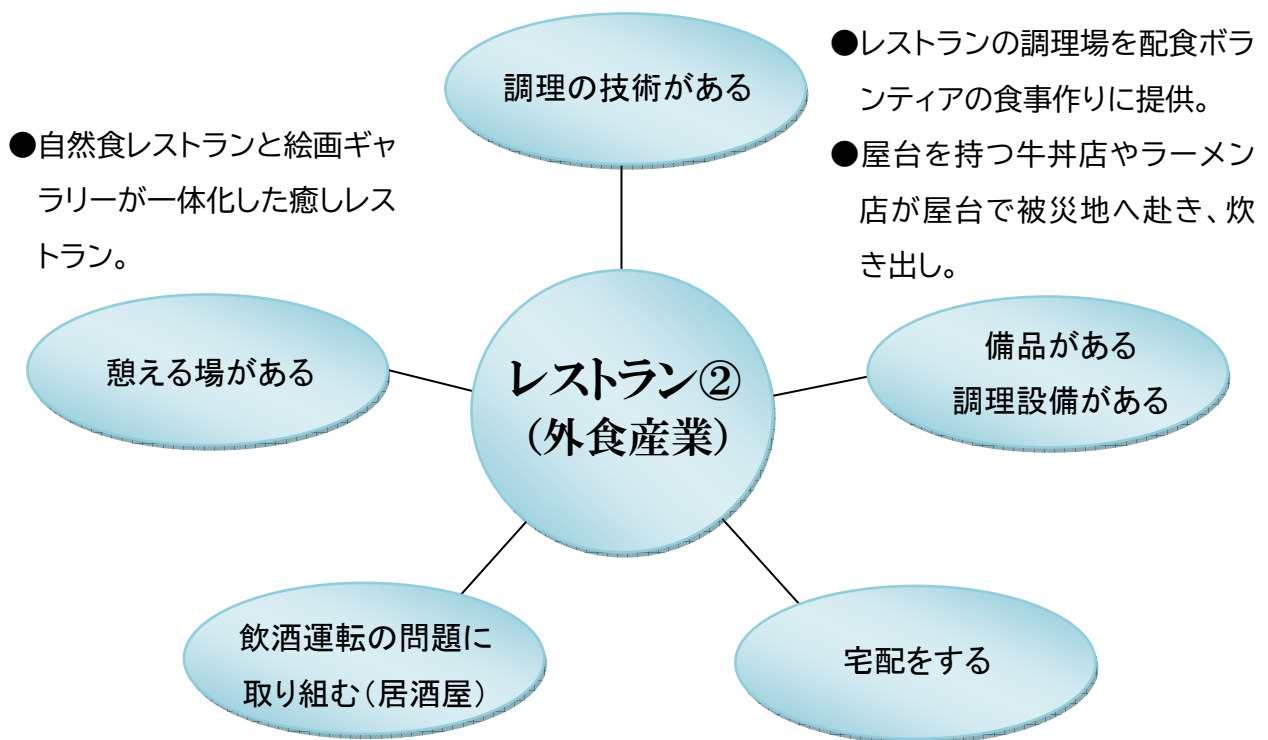
- 低所得者が食事に困った時に無料で料理を提供する食堂。
- 震災時に店舗や調理工場の設備を使って炊き出し。



- フレンチレストランが、ピューレの技法を生かして「流動食のフルコース」を提供。
- 障害のある子に特別対応。待つのが苦手な子が待たずに食べられる工夫や、感覚過敏の子に静かな席を提供するなど。

- 一般の食堂が、食事制限の必要な人たちのための特別メニューを用意。
- 「生活習慣病患者がおいしく食べられる」レストラン。糖尿病療養指導士や管理栄養士が常駐し、栄養指導室なども備える。

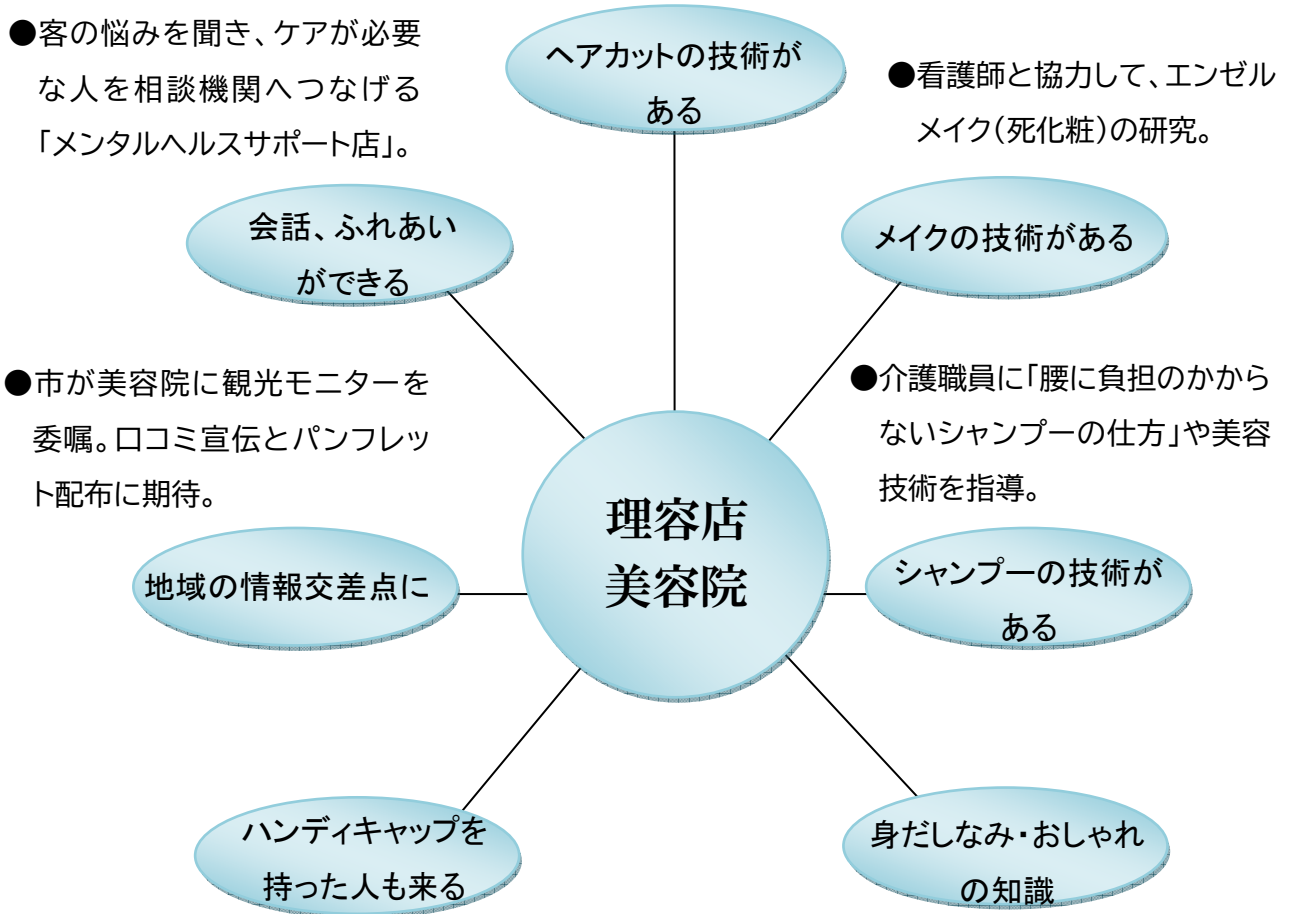
- シェフが知的障害者施設などを訪れて無償で調理。
- 惣菜宅配業者が重度障害者宅への宅配ついでに調理サービス。



- 入店時に運転者を決めてもらい、その人には飲酒させない取組。
- 大手居酒屋チェーンが、客を自宅まで無料で送迎するサービス。飲食業組合による「共同深夜バス」の運行や、無料(または割引)での代行運転の提供も。

- 栄養士が療養食を届ける「カウンセリング・デリバリー」。宅配時に栄養相談ができる。
- 高齢者向け弁当をヘルパー資格を持つ人が配達し、ついでに身の世話も。

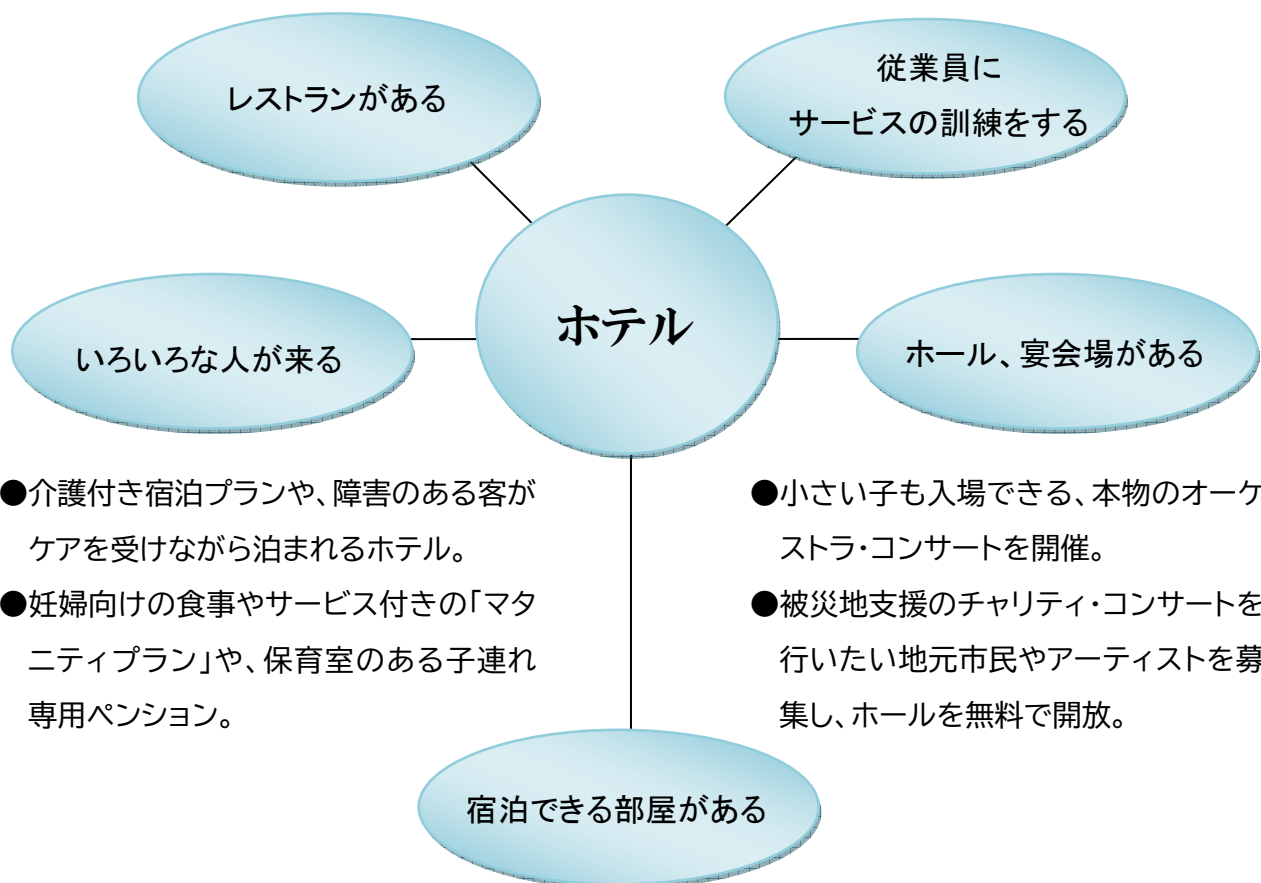
- 発展途上国からの研修生が集まる施設へ
出向き、無料で研修生のヘアカット。



- ガン患者の毛髪の悩みに応える美容室。人毛100%のかつらを低額・カット付きで提供する。患者同士のお茶会の開催やニュースレターの発行も。
- 子連れ客のために託児サービスや、子育て中の家へ出張美容も。

- 授産施設の菓子コンテストを開催し、入賞作に「ホテル推奨マーク」をつけて販売。優秀者をパティシエに登用も。
- パティシエが考案した菓子のレシピを授産施設に技術供与。

- 五つ星の高級ホテルが、貧困層の子どもたちにキャリア教育。各部署の腕を活かし、対人スキルから食育まで。
- 障害者が働く高級レストランで、プロフェッショナルなサービスの仕方を指導。



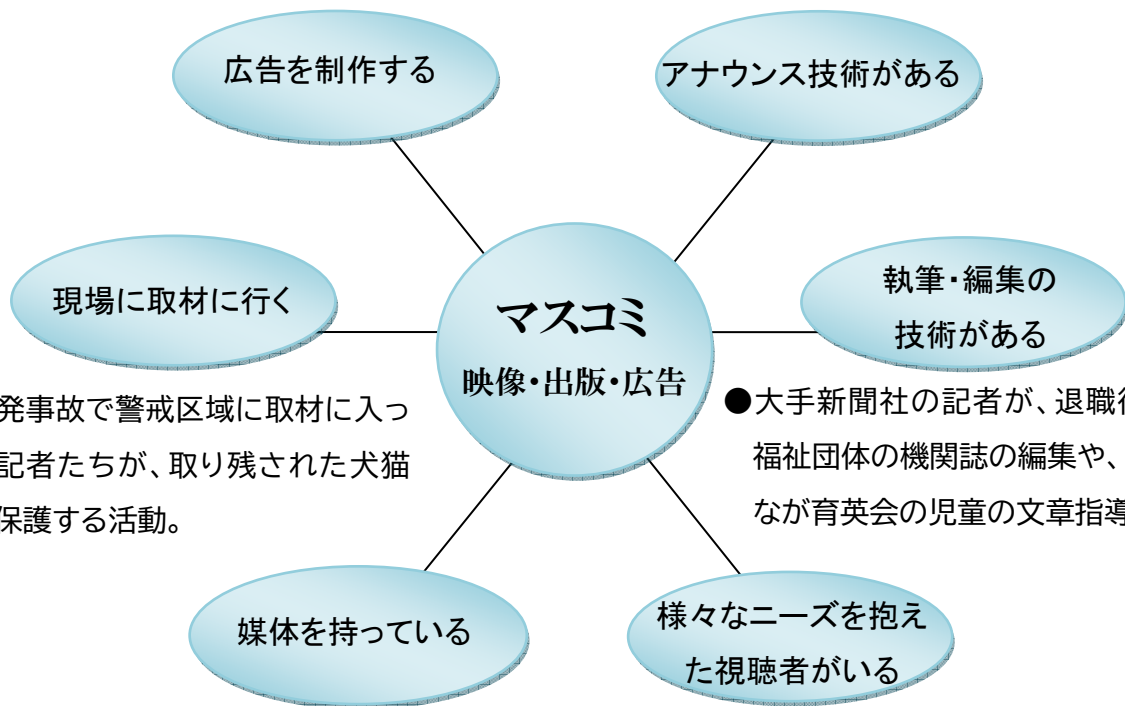
- 介護付き宿泊プランや、障害のある客がケアを受けながら泊まれるホテル。
- 妊婦向けの食事やサービス付きの「マタニティプラン」や、保育室のある子連れ専用ペンション。

- 小さい子も入場できる、本物のオーケストラ・コンサートを開催。
- 被災地支援のチャリティ・コンサートを行いたい地元市民やアーティストを募集し、ホールを無料で開放。

- 高級ホテルが、難病の子どもの夢を叶える「メイク・ア・ウィッシュ」活動をサポートし、本人と親の宿泊を無料で受け入れ。
- 被災者に無料で部屋や風呂を開放。ペット可ホテルが「ペットも一緒に受け入れ」も。

- NPOの広報力を向上させるハンドブックを作成したり、NPOの広報用ロゴやスローガン、ポスターを無償で制作。
- シャッター商店街の活性化を支援するため、各店主を主役にした面白い宣伝ポスターをボランティアで制作し、展覧会も開催。

- 元アナウンサーが、名作の朗読を録音して視覚障害者や高齢者に無料配信したり、教師に話し言葉教育のノウハウを提供。
- 現役アナウンサーが子ども向け朗読会。



- 原発事故で警戒区域に取材に入った記者たちが、取り残された犬猫を保護する活動。

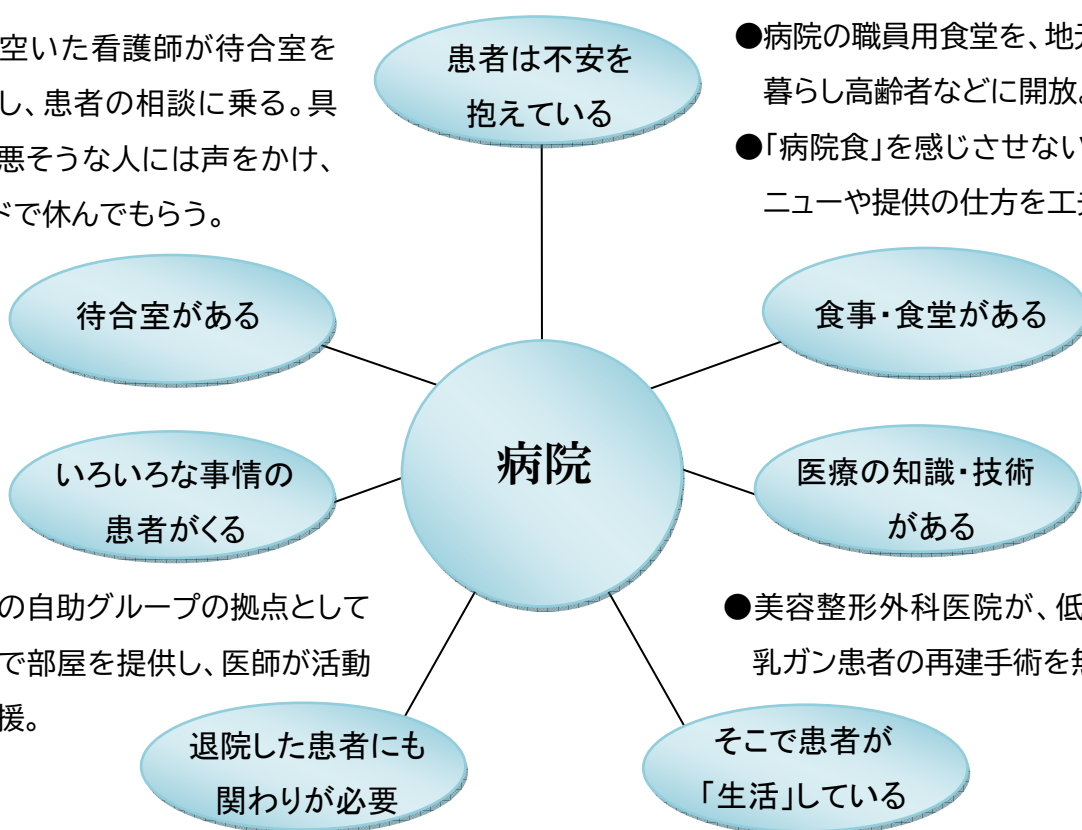
- 大手新聞社の記者が、退職後に福祉団体の機関誌の編集や、あしなが育英会の児童の文章指導。

- 企業向けCSR情報誌を発行する会社が、災害時に、被災者が必要としている物資や人的支援の情報を企業につなげる活動。
- 地方FM局が、県内に避難してきた被災者の声を、それぞれの地元FM局で放送してもらい、故郷とのつながりを保ってもらおう活動。

- 眠れない中高年や高齢者のために、退職や現役の中高年アナウンサーが懐かしい曲などを届ける深夜ラジオ番組。
- ネットラジオでニートの若者を支援する番組。

- 緩和ケア病棟の医療チームに僧侶を加え、死を前にした患者や家族のスピリチュアルなケアもする。
- 「不安な患者の心が休まる場所になっていない」と、雑然とポスターなどが貼られた廊下を見直し、心が休まる環境づくり。

- 手の空いた看護師が待合室を巡回し、患者の相談に乗る。具合の悪そうな人には声をかけ、ベッドで休んでもらう。



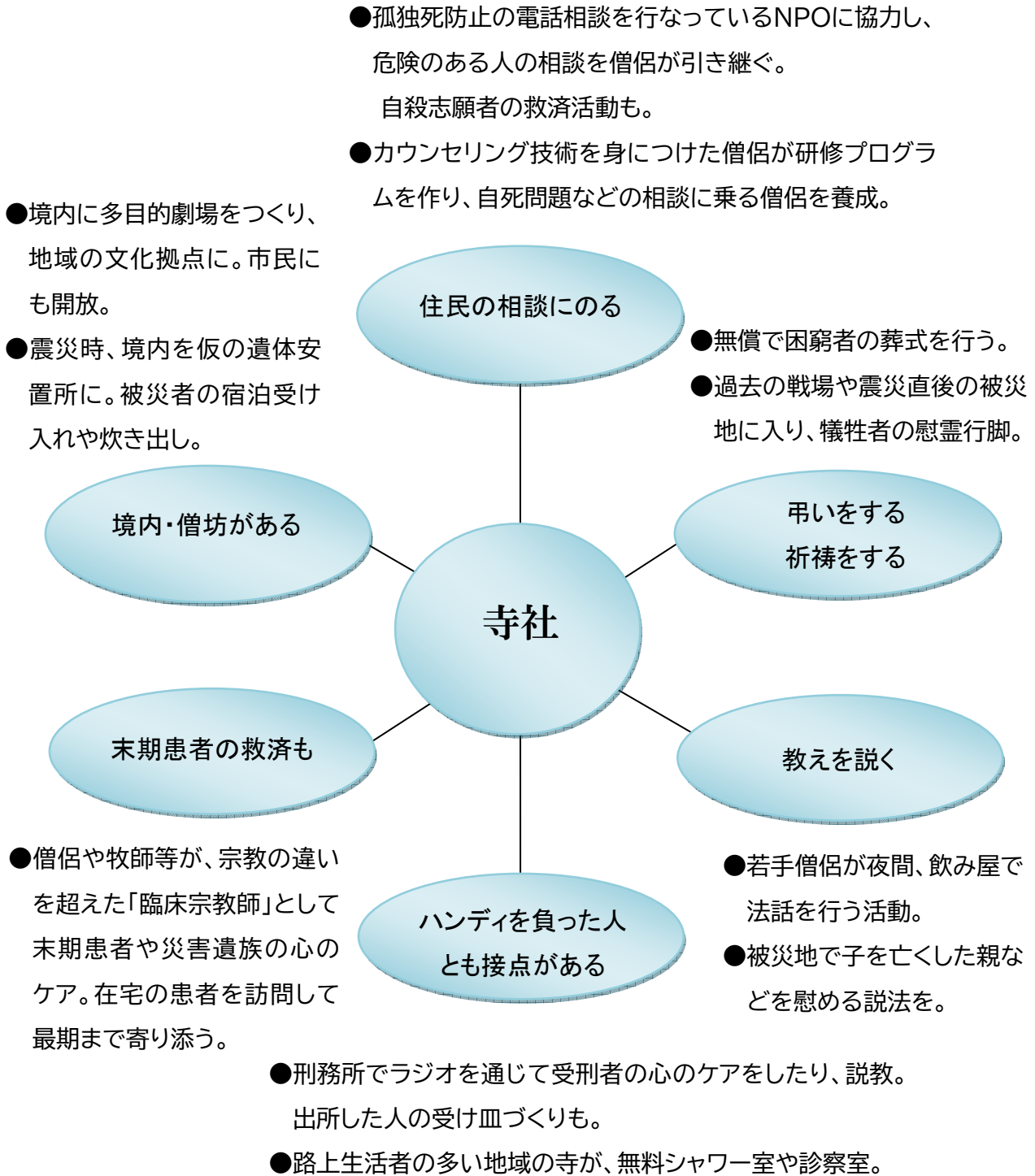
- 病院の職員用食堂を、地元の一人暮らし高齢者などに開放。
- 「病院食」を感じさせないように、メニューや提供の仕方を工夫する。

- 患者の自助グループの拠点として無料で部屋を提供し、医師が活動を支援。

- 美容整形外科医院が、低収入の乳ガン患者の再建手術を無料で。

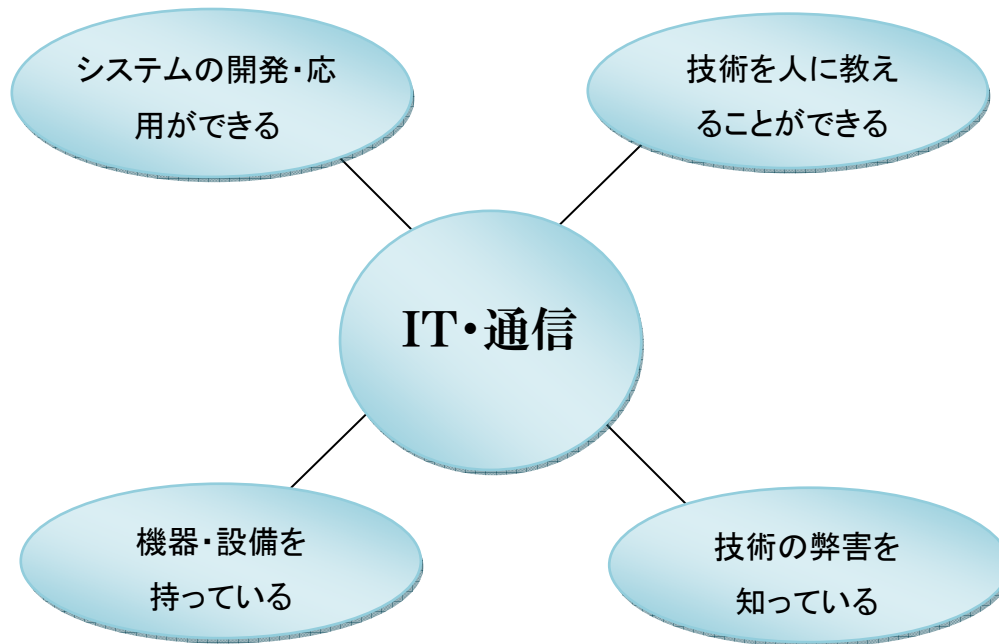
- 現役の医師が患者の社会復帰を支援するため、薬局店兼福祉機器店を開業。店で販売活動をしなが、日常生活の指導も。

- 高齢者病棟の患者もなるべくベッドから起こし、時には着替えや化粧もして普段どおりの生活をしてもらう。
- 面会時間を決めない。いつでも受け入れ。



- IT技術を活かして、ハンディのある子どもの教育支援を行う。
障害のある学生の授業支援、過疎地の小学校の教育支援、不登校児童のコミュニケーション支援など。
- コンピューターネットワーク技術を生かし、重度身体障害者などが在宅で働けるシステムを整備して、雇用。

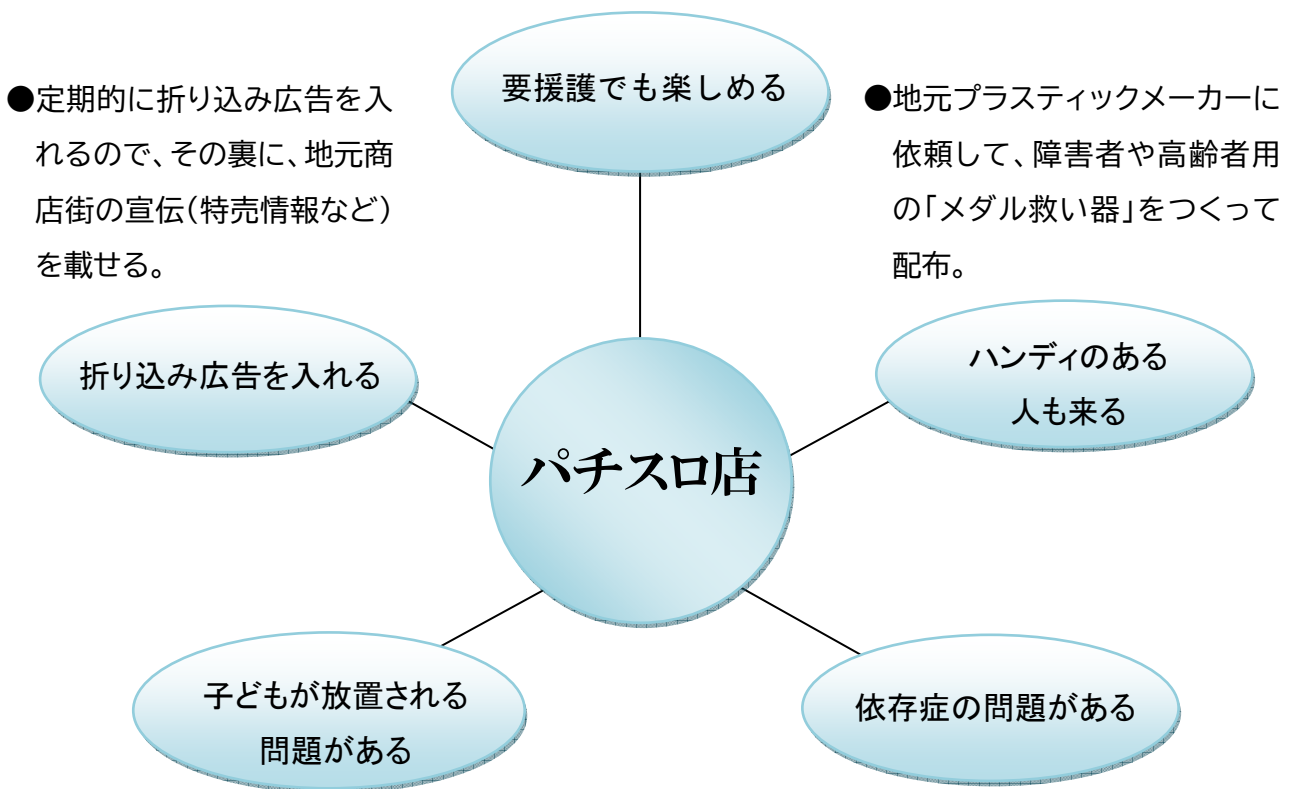
- IT機器会社が、高度なITスキルを習得できる障害者の就業支援プログラムを実施し、自社でも雇用。
- 障害者の作業所に技術者を派遣し、プログラマーやシステムエンジニアを養成。



- チャリティプロジェクト、被災地域などにサーバーやサービスを無償提供。
- 全国の基地局網を「観測網」として活用。花粉の飛散量や紫外線の強さ、二酸化炭素濃度などの観測を行う。

- IT会社が、中学校などでの情報モラルや情報セキュリティ教育に取り組む。
- RPA技術(パソコンによる事務処理をソフトウェアロボットが代替する)の導入で、障害者の仕事が減っていくことが予想されるため、障害者がRPA自体を操作するエンジニアとして活躍できるよう、育成プログラムを立ち上げ。

- 店休日を利用し、近隣のデイサービスセンターに通う高齢者と介護者を招待してパチンコ大会。
- 出前専門の「移動パチンコ車」をつくり、高齢者施設の巡回訪問。成績に応じて賞品も。



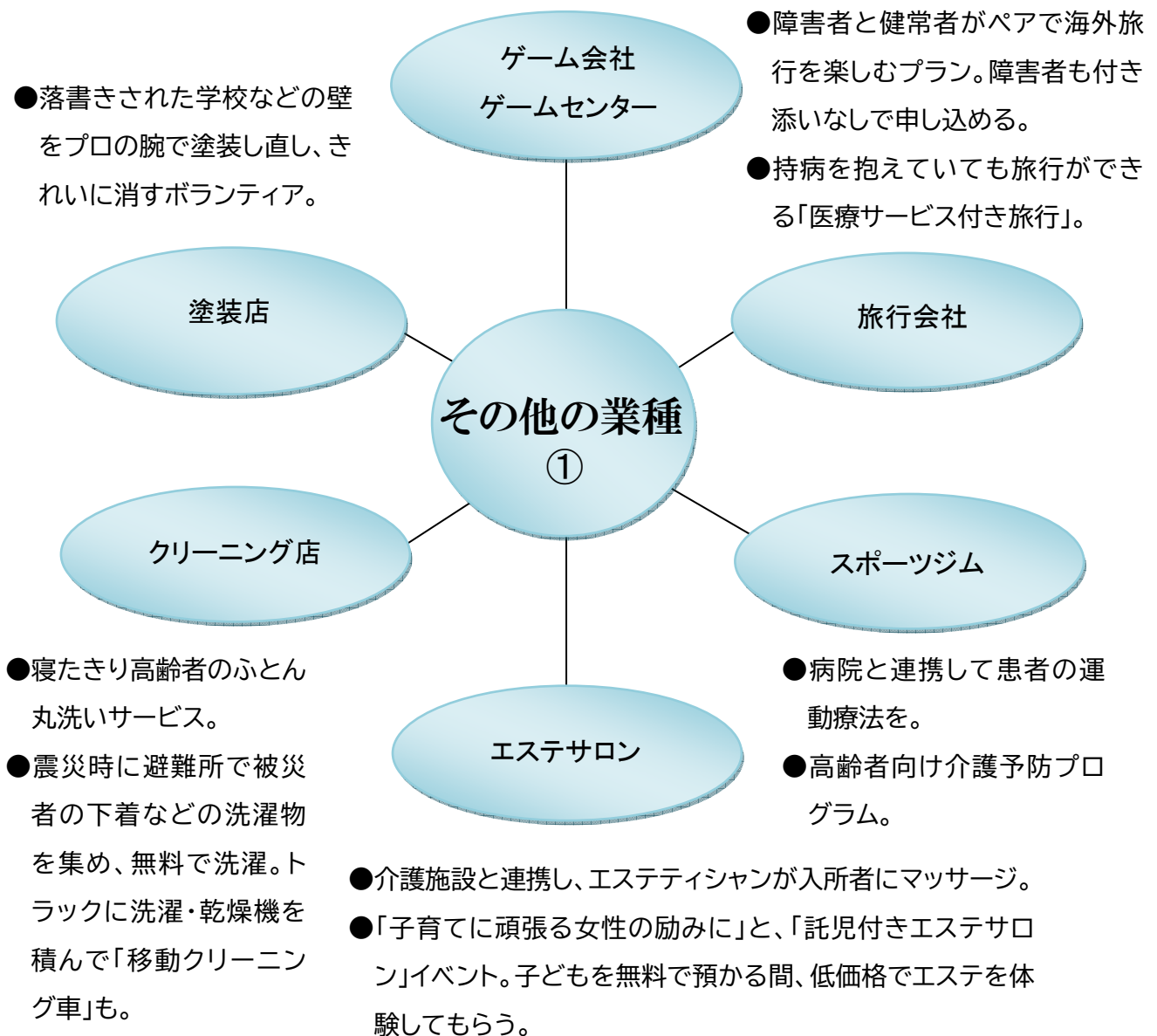
- 定期的に折り込み広告を入れるので、その裏に、地元商店街の宣伝(特売情報など)を載せる。

- 地元プラスチックメーカーに依頼して、障害者や高齢者用の「メダル救い器」をつくって配布。

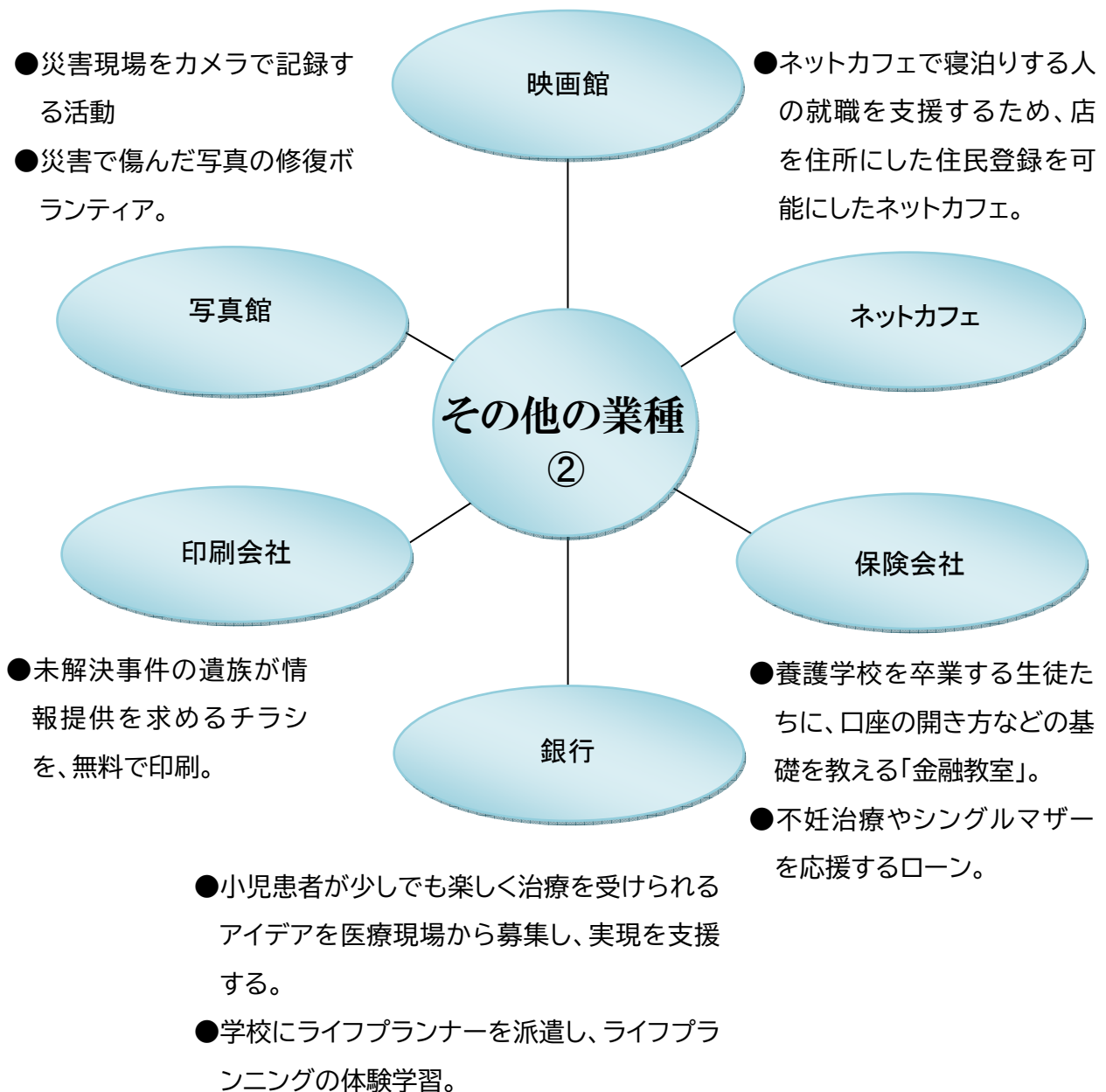
- 店の一角を託児NPOに無償提供して託児ルームをつくり、店の利用客が低額で利用できるようにしてもらう。

- ギャンブル依存症の資料を店内に掲示し、毎日来ている客に声かけを行う。
- 業界と大学が協力し、依存症の医学的解明に取り組む。

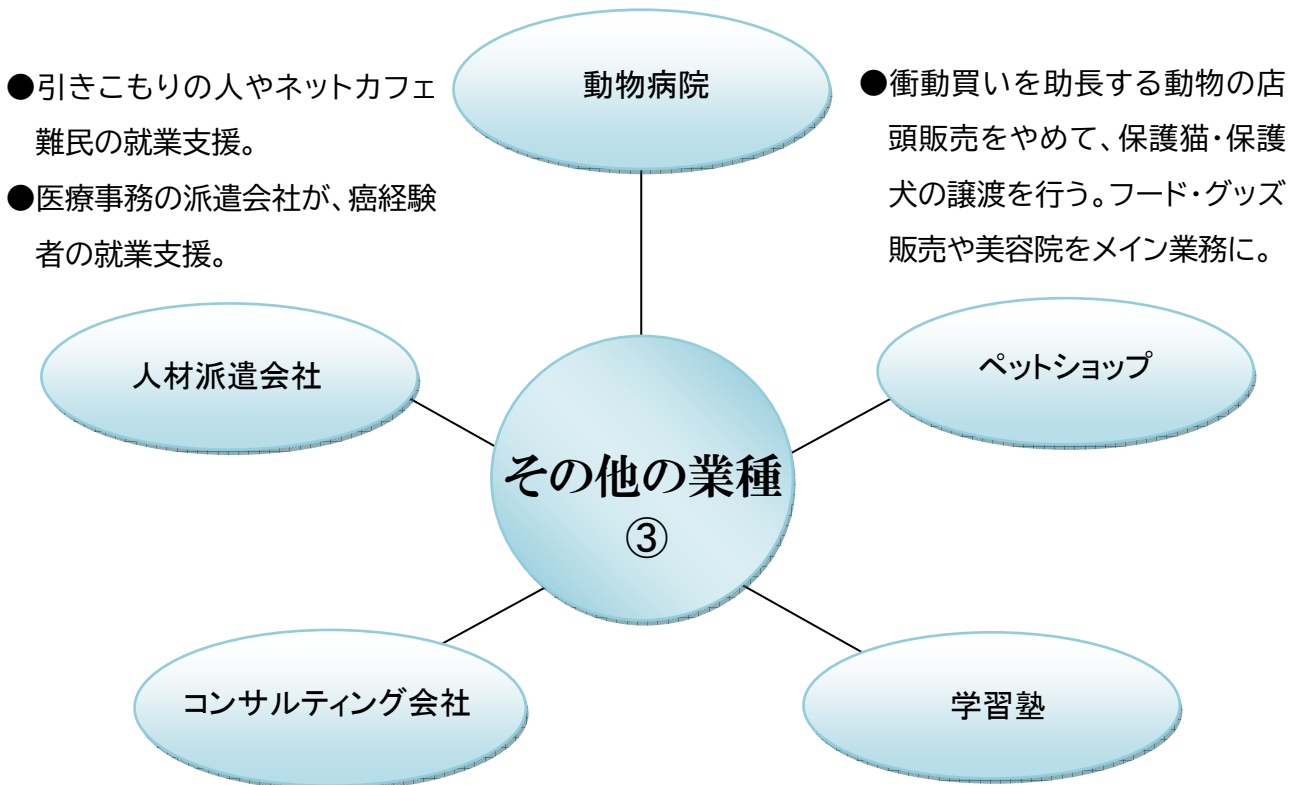
- ゲームセンターに高齢者が多く集まるため、「ゲームの間に血圧チェック」「一斉に体操する時間を設ける」など、ついでに健康サービスを提供。
- 人気のペット育成ゲームが、犬猫との生活をリアルに体験できることから、動物保護団体に無償で提供し、「責任をもって飼う」教育に活用。



- 「自閉症の子が楽しめる上映会」を開催。刺激の強い音や光をなくし、自由に席を立て動いたり声を出したりできる。
- 寝たきりの高齢者の自宅へ、昔懐かしい映画上映の出前ボランティア。



- 病気やケガをした野良猫を無償で治療して、里親探し。障害が残った猫は院内で飼育する病院も。
- 野良猫の治療や避妊・去勢手術を割安で。引退した獣医がNPOに協力し、専門の病院も。



- 引きこもりの人やネットカフェ難民の就業支援。
- 医療事務の派遣会社が、癌経験者の就業支援。

- 衝動買いを助長する動物の店頭販売をやめて、保護猫・保護犬の譲渡を行う。フード・グッズ販売や美容院をメイン業務に。

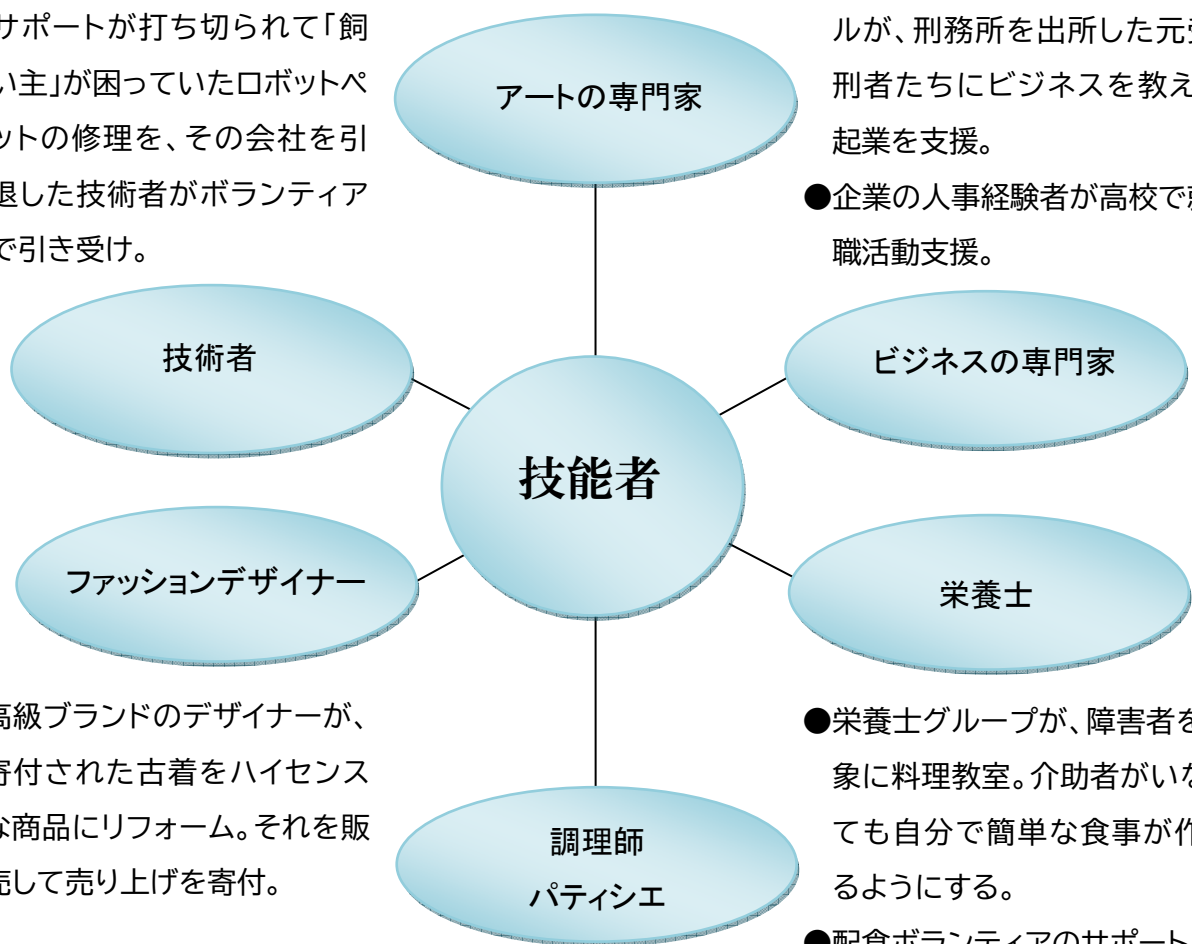
- ビジネスの専門家チームを結成し、授産施設の経営支援(売れる商品づくりや販路開拓)。
- 企業に障害者雇用のノウハウを提供。障害者の側にも、自分がどのような配慮を必要とするかを伝えるトレーニングなどを提供。

- 病気や事故で入院中のため、学校に行かれない小中学生に、無料で家庭教師を派遣。
- 被災して通塾できない生徒に無料で授業をしたり、参考書を届ける。

- アートの専門家たちで授産施設をつくり、障害者の芸術作品を徹底的にプロデュースして海外などにも売り出し、販路を開拓。
- プロのアーティストやデザイナーが、「美しさ」を追求した義手や義足作りに取り組む。

- サポートが打ち切られて「飼い主」が困っていたロボットペットの修理を、その会社を引退した技術者がボランティアで引き受け。

- 起業支援のプロフェッショナルが、刑務所を出所した元受刑者たちにビジネスを教え、起業を支援。
- 企業の人事経験者が高校で就職活動支援。

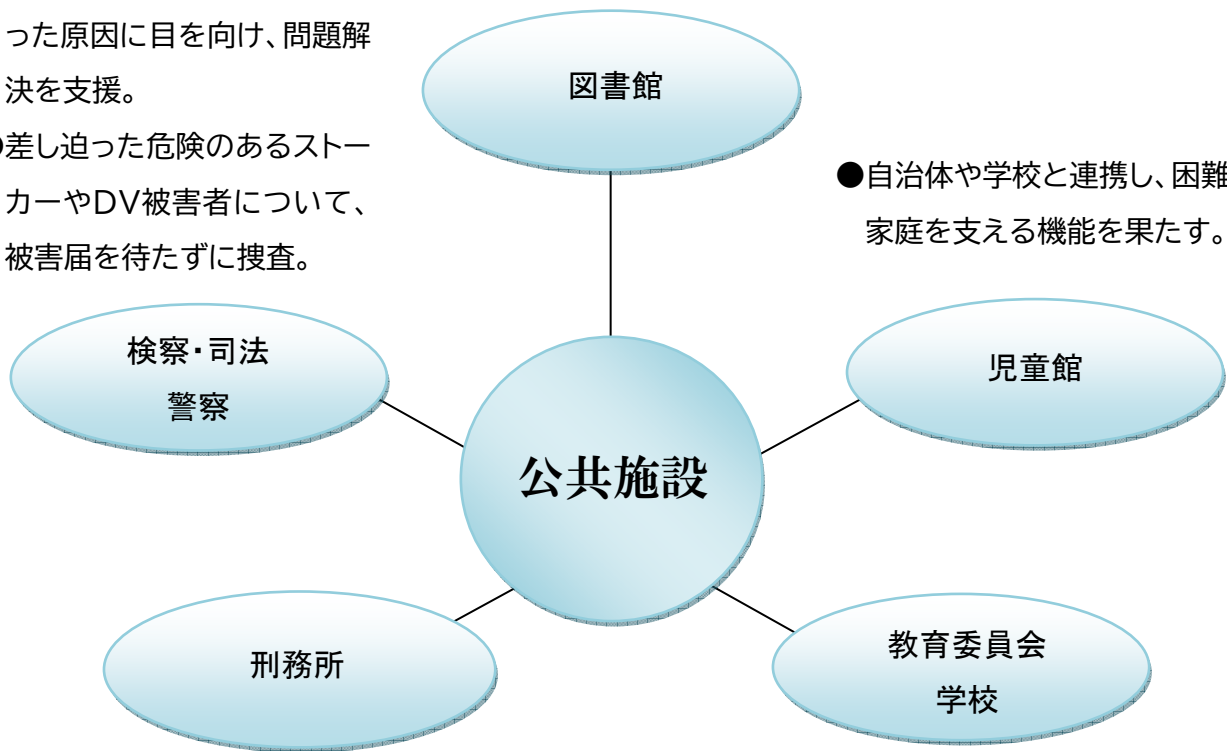


- 高級ブランドのデザイナーが、寄付された古着をハイセンスな商品にリフォーム。それを販売して売り上げを寄付。

- 栄養士グループが、障害者を対象に料理教室。介助者がいなくても自分で簡単な食事が作れるようにする。
- 配食ボランティアのサポート。

- 同じ市内の料理店の調理師たちがボランティアグループをつくり、施設等を訪れて料理をふるまう。
- 障害者を一流のショコラティエに育てるプロジェクトで、チョコレート界の巨匠が業務受注も含めて全面協力。

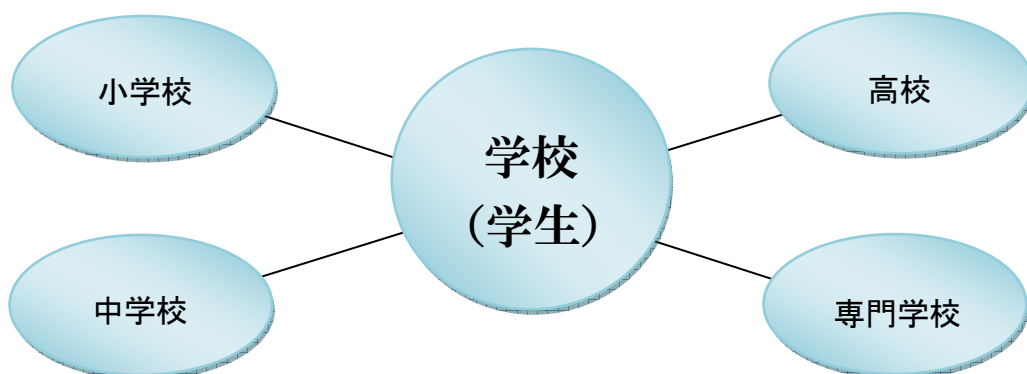
- 検察官が、ただ起訴をするのではなく、加害者が犯罪を行った原因に目を向け、問題解決を支援。
- 差し迫った危険のあるストーカーやDV被害者について、被害届を待たずに捜査。
- 放課後の児童の世話に力を入れる図書館。十代のボランティアや専任の司書が宿題を見るなどして関わる。
- 高齢者向けの支援を高齢者自身が提案し、実行する図書館。大活字本の宅配サービスやシニア向け講座など。
- 自治体や学校と連携し、困難家庭を支える機能を果たす。



- 元刑務官や刑務技官が、企業に刑務所への生産委託を勧めるコンサルティング会社を設立。アパレル会社もつくり、デザインや生産指導を行いながら、生産を刑務所に委託。
- 刑務所で、受刑者が保護犬と寝食を共にしながら訓練し、里親に引き渡す活動をさせることで自尊心を回復させる活動。
- 心理学を学ぶ大学生を、いじめや不登校で悩む中学生の相談員に。
- 教師がボランティアで帰国者や外国人親子のための日本語教室を開催。

- 小学校が独居高齢者への「子どもヘルパー」活動。1年から毎週お便りを書き、4年から自宅を訪問してお手伝いや話し相手。児童の自宅近くの高齢者を割り振り、日頃から挨拶などの交流。
- 小中学生が登録制の「キッズヘルパー」としてデイサービスの活動に参加。出迎えやお茶入れ、一緒に体操をしたり、背中を流したり。擬似通貨で報酬も。

- いじめ被害者やいじめで友人を亡くした中高生たちが、いじめ相談活動。
- 地元養護学校の運動会のサポート役に。
- 学生の技能やセンスを生かして商店街に協力し、空き店舗を活用したまち起こし。

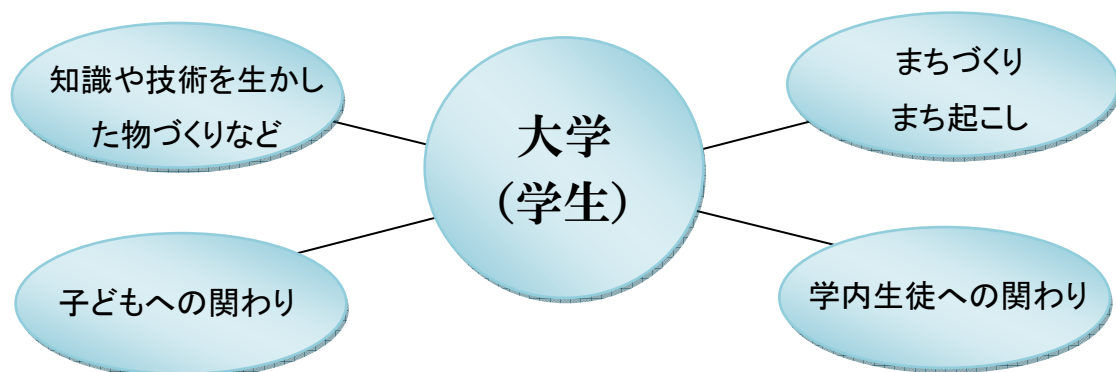


- 行動範囲が地元地域であるため、防災の担い手として期待され、「中学生レスキュー隊」の結成など。
- 中学校の広報委員会が「町内会便り」作りに参加。

- 日本装飾美術学校の生徒が、少年刑務所受刑者のデザインによるTシャツ販売に協力。
- 福祉専門学校が、地域の障害者と家族のための相談センターをオープン。
- 保育を学ぶ学生と教師が、地域の子育て支援のための「子育て広場」を開設。

- 家政大学が、専門技術を生かして「付加価値をつけた農産加工品」を開発し、障害者の能力を活かせる就労の場として生産・販売を行う。
- IT技術を生かして、振り込め詐欺被害防止用のアプリや子育て支援用データベースづくり。

- 大学生が故郷の島を卒論の研究テーマに選び、卒業後は帰島してまち起こしに参加。
- 工学部が中心市街地に「サテライト研究室」をつくり、商店街や関連団体が連携して行なう活動のコンサルタント役に。
- 近隣地域のまち起こしに協力。遺跡や史蹟を調べ、「歴史ロマンの散歩道」を設定するなど。



- 学生が小中学校で外国人児童の授業補助。留学生が母国語で指導も。
- 中学校の夜間無料補習授業で、OBである大学生が講師に。
- 大学が「不登校児に家庭教師を派遣する」活動を立ち上げ、参加を希望する学生に講習を行って派遣。

- 学生が、障害のある仲間の授業支援を行う組織づくり。
- 留学生のために外国語版の住宅案内作りなど。
- 大学が、新卒者だけでなく既卒者の就職支援も行う。

住民流福祉総合研究所

木原孝久

〒350-0451

埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 1 4 7 6 - 1

TEL049-294-8284

kiharas@msh.biglobe.ne.jp

<http://juminryu.web.fc2.com/>
